

ここが聞きたい!!

6名が登壇

町債をいかに減らすか、 具体的方策について！

田村三郎 議員

問 本年9月末の周防大島町の町債残高は一般会計で235億円、特別会計で約82億円、病院事業会計で約67億円、合計約400億円近い残高がある。これらの多額の



町債をいかにして減額していくのか、町長としてどのような具体的対策があるか。

答 (町長) 周防大島町が誕生し、早いもので4年が経過した。その間、旧町からの引継事業である星野哲郎記念館、大島斎場、環境センターなどの大型事業に取り組み、更には、防災行政無線整備事業、道路新設

改良事業、漁港整備事業、あるいは公共下水や農業集落排水事業など、町民の皆さんの安全、安心や生活基盤整備、地域の活性化のために様々な事業を行ってきた。

これらの事業実施に当たっては、国や県の補助金などの財源確保に努め、かつ、過疎対策事業債や合併特例債など地方交付税でその元利償還に対する措置率の高い、できるだけ有利な起債を活用してきた。

一般会計に限定してみると、合併前の平成15年度末の起債残高より、約31億円の減となる見込みであり、今後とも起債残高はさらに減少する見通しである。



椎木町長の政治姿勢を問う！

広田清晴 議員

問 町民主人公の町実現のための努力を。

答 (町長) 町民の皆様が参画できる町民主体の町づくりを推進する。



問 地方自治体は、憲法上又地方自治法の上でも国とは対等が原則。しかし、財政の締めつけの中「下請け機関」となっている。

国にも椎木町長は町民の目線で物申すつもりか。

答 (町長) 国、県の財政支援を受けながらも町は町なりに独自性を出し、町民の為の町作りの立場から今後とも国等に対して意

見を言うて行く。

問 汚職腐敗のない町実現に最大限の努力を求める。

答 (町長) 議員指摘の通り汚職腐敗は行政にとって悪であり、絶対に許されない行為。誤りが起こらない環境作りも私共に与えられた使命。

問 今回の選挙戦を通じ病院建設問題、企業局職員の患者に対する対応について、多くの意見を聞いてきた。町立病院の職員にふさわしい対応が求められている。

答 (企業管理者) 新採用職員に公務員の意識の教育、医療従事者としての町民への奉仕、経営への参加を含め研修会を行っている。今後とも総務部と各施設間で温度差が起きないように努力する。

(その他、町財政、イノシシ対策等。)